あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

朝日遺跡だより

2025年3月
vol.16

振り返りレポート／企画展「あいちの発掘調査2024」
弥生ムラづくりプロジェクトレポート／「土器づくり」他
シリーズ／ミュージアム収蔵品ファイルNo.15「沈線文系土器」
図書紹介／「2005年日本国際博覧会　愛知県記録誌」他
学芸員がお答えするQ&Aコーナー／
清須に海はないのに、なんでたくさん貝が出てくるの?
連載／ミュージアムスタッフのこぼれ話
ショップグッズ紹介／「S字甕手ぬぐい」
古代体験プログラムのお知らせ
12月～2月のできごと
企画展「「S字甕」というとても薄い甕が流行っていた件」
開催のお知らせ

あいち朝日遺跡ミュージアム

企画展展示風景

振り返りレポート

企画展 あいちの発掘調査2024

期間 2025年1月18日(土)～3月9日(日)
場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

愛知県内では、毎年多くの遺跡で県や市町村による発掘調査が行われており、貴重な発見が相次いでいます。毎年冬の企画展では、そうした県内各地で行われた最新の発掘調査の出土品を展示し、考古学の視点から県内各地域の歴史を概観できる内容となっています。企画展「あいちの発掘調査」は、朝日遺跡をはじめとして県内各地の発掘調査を実施している公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターの協力により開催されており、今回で3回目となりました。

展示資料

今回紹介した遺跡は、根道外遺跡（設楽町）、亀塚遺跡（安城市）、田光遺跡（名古屋市）、三ツ山古墳（豊橋市）、清洲城下町遺跡（清須市）、岡崎城跡（岡崎市）、掛梨遺跡（西尾市）、高ノ御前遺跡（東海市）の8遺跡です。また、講演会のテーマとして取り上げられた「赤彩竪櫛」（亀塚遺跡）にちなみ、あいち朝日遺跡ミュージアムからは、普段は公開していない朝日遺跡出土の装身具39点（うち36点重要文化財）を展示しました。

赤彩竪櫛：安城市亀塚遺跡
（愛知県埋蔵文化財調査センター蔵）

関連講演会

会期中には、当ミュージアムにおいて発掘調査最新成果報告会「あいちの縄文と弥生」「あいちの古墳と製塩、城館」を開催しました（P7）。両日ともに満員で、各遺跡の調査担当者の熱意がお客さんにも伝わり、大盛況に終わりました。また、清須市教育委員会との共催で、企画展講演会「デザインの時間軸―安城市亀塚遺跡と赤彩竪櫛」を開催しました（P7）。亀塚遺跡の調査を担当した河嶋優輝氏（愛知県埋蔵文化財センター調査研究主事）、櫛文化から古墳時代の社会像を研究している大熊久貴氏（明治大学文学部助手）の研究発表のあと、深澤芳樹氏（奈良文化財研究所客員研究員）の弥生時代から古墳時代にかけてのデザインの変化についての講演があり、ミニシンポジウムも大変好評でした。

ハンズオン展示

期間中は、キッズ考古ラボにて触る体験ができるよう、「赤彩竪櫛」の原料となっているカヤの木や、その他さまざま

な樹種で、出土した竪櫛と大きさをそろえて制作した竪櫛を並べました。竪櫛に触ってサイズや質感を体感してもらい、カヤをはじめとしたいろいろな木の香りの違いを楽しんでいただきました。また、展示されている高ノ御前遺跡出土の貝類と比較できるよう、朝日遺跡から出土した「ハマグリ・シジミ・カキ」もキッズ考古ラボでご案内しました。

何が入っていたの？

本年度、展示紹介した資料のうち、当館担当者が興味をもったものは、田光遺跡出土の手焙形土器（てあぶりがたどき）です。手焙形土器は、手を温める道具であった手あぶりに似ているためその名がついています。しかし、その用途や使い方はわかっていません。今回展示した資料の内部には炭化物が付着していました。また炭化物が付着しているラインをみていくと、土器の口が上を向くように内容物が入っていたことがわかります。炭化物の分析はされていないのですが、分析をすれば、中に何がはいっていたのかがわかり、手焙形土器の用途を理解するための一助となりそうです。今後の調査が期待されます。

手焙形土器：名古屋市田光遺跡
（名古屋市教育委員会蔵）

謝辞

最後に本企画展の開催にあたり、ご協力をいただきました所蔵機関をはじめ、関係者、関係機関のみなさまに厚く御礼申し上げます。

（松本　彩）

企画展ポスター

弥生ムラづくりプロジェクト レポート

ボランティア「おもてなしムラ人」と共に弥生時代の土器づくり・炊飯を体験。この冬は弥生土器をつくり、「湯とり法」で炊飯を行いました。

土器づくり

2024年12月21日(土)

実際に朝日遺跡で出土した土器を見てもらい、作成する土器のイメージを固めてもらった後、土器づくりを行いました。なかなか思い通りの形にならず、悪戦苦闘する方もいましたが、皆さん楽しそうに作成していました。

土器焼き

2025年1月25日(土)

12月に製作した土器を、弥生時代と同じように稲わらや土をかぶせて焼く「覆い焼き」と呼ばれる方法で土器を焼きました。焼成後に土器を取り出してみたところ、今回も大きな割れが少なかったため、皆さんで喜び合いました。

土器炊飯

2025年2月15日(土)

弥生ムラづくりプロジェクトの締めくくりは、体験水田で育てたお米を、復元した土器で炊き上げる「土器炊飯」!弥生時代の人々は当時どのようなお米をどう調理して食べていたのかなど、皆さん興味津々といった様子で見守っていました。

シリーズ　ミュージアム収蔵品ファイル No.15

沈線文系土器

沈線文系土器（重要文化財／本館蔵）

沈線文系土器（重要文化財／本館蔵）

口縁と肩部の文様（本館蔵）

沈線文系土器の分布とネットワーク（永井1994を一部改変）

沈線文系土器は、その形や文様から、あたかも縄文土器のように見えますが、弥生時代前期末から中期初め頃を中心に作られたれっきとした弥生土器です。岩倉市大地遺跡の出土資料を標識とし「大地式土器」とも呼ばれています。朝日遺跡では、小片が多いもののかなりの点数が出土しています。このうち完形に近いもの2点が重要文化財に指定されています。

沈線文系土器の特徴は、次のようなものです。

- 肩部が大きく張り出し、頸部との境に段をつくり、頸部から口縁部にかけて大きく開く形状。
- 波状口縁と突起状の装飾。
- 口縁部と肩部を中心に施される沈線文による装飾。
- 器形は壺に分類されているが、しばしば火を受けたものがみられます。

沈線文系土器は朝日遺跡をはじめとする尾張、美濃地域で多く見つかっています。しかし、その分布は、北陸地方や信濃地域など広く中部地方全体に及んでいます。主要な出土遺跡をつなぐと、御岳山を取り囲む御岳環状ネットワーク、白山を中心とする白山環状ネットワークという、縄文時代以来の中部地方内陸部の交流ルートが浮かび上がってきます。

華やかな西からの文化に目を奪われがちですが、沈線文系土器は東日本の弥生文化を形作った複雑な地域文化の成り立ちと交流を物語っているのかもしれません。

（原田　幹）

参考文献
永井宏幸　1994「沈線文系土器について」『朝日遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター

第2号から連載を続けてきた「収蔵品ファイル」は、本号でいったん区切りとなります。次号からは、朝日遺跡の発掘調査と弥生文化研究を取り上げた新しい企画がスタートする予定です。

〈収蔵品ファイルバックナンバー〉

1.円窓付土器（2号／2021年10月）、2.銅鐸（3号／2022年1月）、3.遠賀川系土器と条痕文系土器―対峙する西と東の土器―（4号／2022年3月）、4.ガラス小玉が埋め込まれた壺（5号／2022年6月）、5.勾玉・管玉（6号／2022年9月）、6.筒形土製品（7号／2022年12月）、7.鳥形土製品・鳥形木製品（8号／2023年3月）、8.袋状鉄斧（9号／2023年6月）、9.柄付鉞（10号／2023年9月）、10.石包丁・大型石包丁（11号／2023年12月）、11.粗製剥片石器（12号／2024年3月）、12.打製石鏃―朝日型長身鏃―（13号／2024年6月）、13.S字状口縁台付甕（14号／2024年9月）、14.赤彩土器（15号／2024年12月）。

図書紹介

当ミュージアムの蔵書は、前身である“清洲貝殻山貝塚資料館”の頃から集められた図書です。その数約8,500冊！一般書店では手に入らない調査報告書や全国の博物館で刊行された図録など見どころが満載です。
そんな自慢の蔵書からスタッフおすすめの図書を2冊紹介します。

『2005年日本国際博覧会　愛知県記録誌』　愛知県国際博推進局　2006年3月発行

皆さん、20年前はどの様にお過ごしでしたか？今年は、21世紀最初の国際博覧会「愛知万博」20周年にあたります。この本は、1988年に愛知県での万博開催構想が発表されてから、誘致、準備、開幕から閉幕までの記録です。この本を読むことで、当時の会場の様子を思い出し、また、20年間を振り返るきっかけになればと思います。当館の図書コーナーは、遺跡や考古学に関する本だけではありません。立ち寄った際はぜひ、お気に入りの本を探してみてください。

『東西弥生文化の結節点　朝日遺跡』　原田　幹　2013年4月発行

この本は、当館館長原田幹が執筆した本です。朝日遺跡の発掘の様子、遺跡や出土品について、多くの写真やイラストがカラーで収録されており、わかりやすく紹介されています。鹿角や骨、石などの製品作成工程のイラストを見ると、弥生人が材料を余すことなく利用している様子をうかがい知ることができます。この本を読んで、朝日遺跡、弥生時代の魅力を見つけてください。

学芸員がお答えする Q&A コーナー

ミュージアムでいただくご質問の中から、たくさんの方の「気になる」に学芸員がお答えします。

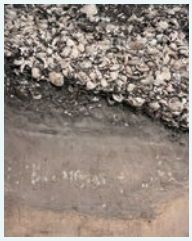
Q 清須に海はないのに、なんでたくさん貝が出てくるの？

A 朝日遺跡からは貝塚が多数発見されていますが、現在の海岸線から朝日遺跡までは距離が離れています。貝は遠くから運んできていたの？とお客さんからよく聞かれます。

実は、弥生時代の海岸線は現在の海岸線とは異なる位置にありました。あいち朝日遺跡ミュージアムから徒歩15分くらいのところに、キリンビール名古屋工場がありますが、弥生時代の海岸線はそのあたりにあったと考えられています。発掘調査から、現在ミュージアムがある場所の北側には谷筋があったことがわかっており、谷筋を南西へ下ると海につながっていたようです。朝日遺跡の人々は、谷筋を利用して川や海から貝を採ってきて食べていたのでしょう。

朝日遺跡出土の貝
（ハマグリ・シジミ・カキ）

朝日遺跡からは、ハマグリ・シジミ・カキをはじめ、様々な種類の貝が出土しており、私たちにいろいろなことを伝えてくれます。弥生時代中期の貝塚には、ハマグリが大量に出土する貝層があり、ハマグリを使って交易をしていた可能性があります。アカニシは中身を食べる以外にも、パープル腺とよばれる部分を染色に使うことができます。朝日遺跡からは布が発見されていないので、実際に染色に使われたかどうかはわかりませんが、もしかしたらいずれアカニシガイで染色されたきれいな紫色の布が見つかるかもしれません。また、敷地北西角にある第三貝塚からは貝塚の中から人骨がみつかっています。通常、人骨は酸性土壌のもとでは分解されてしまって残りにくいものですが、貝殻の成分である炭酸カルシウム（アルカリ性）が酸性土壌を中和してくれたおかげで、人骨が分解されずに残り、当時の人々の情報を私たちにもたらしてくれるのです。


弥生時代中期の貝層剥ぎ取り
（ハマグリ）

（松本　彩）

連載（シリーズ16）

ミュージアムスタッフのこぼれ話

企画展展示資料の探し方

あいち朝日遺跡ミュージアムでは年に4回の企画展を開催しています。企画展では毎回、当館所蔵の資料だけでなく、他の博物館や研究施設が所蔵する貴重な資料も借りて展示します。では、他所の施設が所蔵している資料を展示候補としてどのように探しているのか？というのが今回のお話です。

研究実績の多い学芸員が自身の専門分野に関する展示を担当する場合は、今までの調査研究で集めた資料や知見で展示候補を決めることができますが、詳しくない分野を担当する場合は、まさに勉強しながら展示候補となる資料を探すことになります。この時に参考とするのが、他所の博物館で過去に実施された企画展の展示図録や、全国の遺跡調査で作成された発掘調査報告書です。

このうち展示図録は当館で所蔵するものも多く、直接書棚から手に取って調べればよいのですが、問題は発掘調査報告書です。それこそ全国の遺跡で調査が実施された数だけ存在するため膨大な量があり、当館で所蔵していない報告書がたくさんあります。そこで活躍するのがネット検索です。奈良文化財研究所が公開している『全国遺跡報告総覧』という、全国の発掘調査報告書の書誌情報や電子化データを集めたサイトがあるのです。ここで検索に引っかかった報告書を片っ端から目を通していくのは、私にとって毎回お決まりの作業になっています。

なお『全国遺跡報告総覧』は誰でもアクセスできるので、興味のある方はぜひ訪問してみてください。全国津々浦々で行われた調査がどれだけあるのか、その物量に圧倒されるだけでも価値があるサイトです。

（田中　恵美）

朝日遺跡の発掘調査報告書。『全国遺跡報告総覧』には4万件以上の報告書が登録されています。

ショップグッズ蘊蓄（うんちく）紹介

「S字甕手ぬぐい」

S字状口縁台付甕（通称「S字甕」）は弥生時代の終わり頃に、伊勢湾岸の地域に出現した甕で、口縁の部分が「S」字のように屈曲していることが名前の由来です。しかしながら、この土器の最大の特長は、作りが極めて薄く、驚くほど軽い点です。炊飯用の土器であることから「蓋」の存在も推定できますが、蓋に相当するような出土品が見つかっていないのが不思議です。

今回紹介するグッズは、綿100％の国産の手ぬぐいです。編年順に並べた6類型のS字甕に加え、清須市廻間遺跡の前方後方形墳丘墓、一宮市西上免古墳の実測図を配し、学術の香りが漂います。4月から始まる企画展『「S字甕」というとても薄い甕が流行っていた件』見学の記念として、欠かせない一品かと思います。

手拭いと「S字甕」の口縁部の破片

S字甕手ぬぐい
¥1,500（税込）

古代体験プログラムのお知らせ

土・日・祝開催　会場：本館（体験学習室）

4月

教材費 100円　各回先着 10人　時間 15:00～(45分)

ミニ磨製石器づくり

スレートの板を磨いて鏃（やじり）をつくります。

作例

5月

教材費 800円　各回先着 10人　時間 15:00～(60分)

おうちで焼ける！土器づくり

オーブン陶土を使って弥生土器をつくります。

作例

6月

教材費 350円　各回先着 10人　時間 15:00～(45分)

勾玉・土玉づくり

オーブン陶土を使って勾玉や土玉をつくります。ベンガラで着色もできます。

作例

※2025年4月5日（土）から6月29日（日）までの土・日・祝日に開催（各1回）　※当日ミュージアム本館窓口にてお申し込みください。（事前予約はできません）

12月～2月のできごと

イベント

歴史カードゲームハイスト体験会・公式大会

●日時：2025年1月12日（日）、1月13日（月・祝）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：歴史を楽しむイベントとして、歴史カードゲーム「ハイスト」を活用した歴史講座＆体験会イベント及び公式大会を開催しました。1月13日（月・祝）に行った公式大会「第1回清須卑弥呼杯」は清須市初の開催ということもあり、多くの参加者の皆さんで盛り上がりました。

講座

お菓子作りで楽しむ朝日遺跡！～貝塚パフェをつくってみよう！～

●講師：ヤミラ氏（おかしあそび考古学者）
●日時：2024年12月8日（日）午後1時30分から午後3時30分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：朝日遺跡について当館学芸員による講義を行い貝塚についての知識、イメージをふくらませてもらい、その後、ヤミラさんの説明を聞きながらそれぞれの貝塚パフェをつくりました。

講演会・報告会

デザインの時間軸－安城市亀塚遺跡と赤彩竪櫛

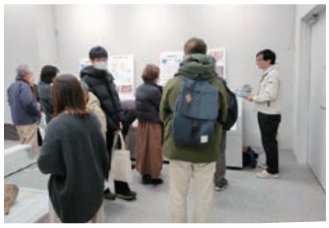
●講師：深澤芳樹氏（奈良文化財研究所客員研究員）
河嶋優輝（愛知県埋蔵文化財センター調査研究主事）
大熊久貴氏（明治大学文学部助手）
●日時：2025年2月2日（日）午後1時から午後4時30分まで
●場所：清洲市民センター1階　ホール
●内容：安城市亀塚遺跡より出土した「赤彩竪櫛」にスポットを当て、これまでの研究成果と今回の資料による新たな見解を紹介しつつ、弥生時代から古墳時代のデザインの移り変わりとその背景について探りました。

発掘調査最新成果報告会Ⅰ「あいちの縄文と弥生」

●講師：早川由香里氏（東海市教育委員会）
吉田皓氏（株式会社イビソク）
川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）
●日時：2025年1月26日（日）午後1時から午後3時30分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム本館（研修室）
●内容：東海市の「高ノ御前遺跡」、名古屋市の「田光遺跡」、設楽町の「根道外遺跡」について、それぞれの発掘調査成果を調査担当者が報告しました。

発掘調査最新成果報告会Ⅱ「あいちの古墳と製塩、城館」

●講師：飯塚寿音氏（豊橋市文化財センター）
鈴木理絵氏（西尾市教育委員会）
田中良（愛知県埋蔵文化財センター）
平山優氏（岡崎市教育委員会）
●日時：2025年2月9日（日）午後1時から午後4時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム本館（研修室）
●内容：豊橋市の「三ツ山古墳」、西尾市の「掛梨遺跡」、清須市の「清洲城下町遺跡」、岡崎市の「岡崎城跡」について、それぞれの発掘調査成果を調査担当者が報告しました。



企画展「「S字甕」というとても薄い甕が流行っていた件」開催のお知らせ

会期：2025年4月26日（土）～6月22日（日）

弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて、伊勢地域・尾張地域では、S字甕と呼ばれる特徴的な土器が流行しました。本企画展では、当館及び愛知県埋蔵文化財調査センター（弥富市）・三重県埋蔵文化財センター（三重県多気郡明和町）・一宮市博物館（一宮市）が所蔵する資料から、S字甕の特徴と、その出現・展開について紹介します。

企画展チラシ

朝日遺跡だより vol.16
令和7年3月発行 発行・編集：あいち朝日遺跡ミュージアム
〒452-0932 愛知県清須市朝日貝塚1番地 TEL 052-409-1467

あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム

観覧料
常設展も観覧できます

区分	一般	大学生・高校生（学生証のご提示が必要です）
個人	300円	200円
団体（有料20名以上）	250円	150円

※学校行事（高校以下）及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方（1名まで）は無料

- 愛知県清須市朝日貝塚1番地
- TEL／052-409-1467
- 開館時間／9：30～17：00
- 駐車場／15台
- 休館日／月曜日（祝休日の場合は翌平日）及び年末年始（12/28～1/3）

戦国時代 清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムから清洲城まで徒歩約10分

入館料

【大人】	400円
【小人】（小中学生）	200円 ※幼児無料

- 愛知県清須市朝日城屋敷1－1
- TEL／052-409-7330
- 開館時間／9：00～16：30
- 休館日／月曜日

※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 清洲城 共通チケット
2施設で計700円を 550円 発券より半年間有効

古墳時代 体感！しだみ古墳群ミュージアム

展示室入館料

【一般】200円
※中学生以下無料

- 名古屋市守山区大字上志段味字前山1367
- TEL／052-739-0520
- 開館時間／9：00～17：00
- 休館日／月曜日

※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 体感！しだみ古墳群ミュージアム 共通チケット
2施設で計500円を 400円 発券より半年間有効

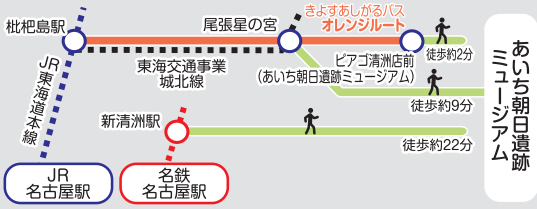
大学生 高校生 2施設で計400円を 300円

共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

AICHI ASAHI SITE MUSEUM あいち朝日遺跡ミュージアム

■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL：052-409-1467 ■ 駐車場 15 台

公共交通機関



クルマ

名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。

https://aichi-asahi.jp/ SNSもご覧ください

あなたに夢を、街に元気を。 クーちゃん宝くじ